

【グループディスカッション「発表」】

○増田調整官 グループ2のコーディネーターを担当いたしました、企画調整官の増田でございます。

当グループでは「事故情報を活用した再発防止・未然防止対策」ということをテーマに議論をいたしました。

まず、現状について、事故情報を現場から経営層に上がってくる仕組みはどこの会社も出来上がっていて、大体月1回程度、経営役員層を構成員とする会議で事故の報告等が行われているということで、ほぼ共通されていました。

一方で課題としては、経営層に上がってくる事故情報を、再発防止ということでいかに現場にフィードバックしていくかというところに課題があると、各社の皆さんからの意見にございました。

具体的には、一つは、事故報告の形骸化、また、過去の事故を踏まえた対策がどんどん風化してしまっているという課題があるということでした。さらに具体的に言うと、まず、人事異動等でどんどん人が変わってしまっていて、過去の事故情報を元にした再発防止対策等の本質等が忘れられがちになっているということ。特に、若い社員や、新しく入ってきた社員たちになかなかそういった本質、つまり、事故を踏まえた対策の経緯、背景が伝わりにくくなってしまっていて、形骸化・風化につながっているという課題があるということでした。

もう一つは、そもそも、いろんな施設や設備等が自動化、機械化されてしまっていて、事故が減ってきているということで、現場が事故を経験することが少なくなっているという課題がございました。これはある意味矛盾するところではあるんですが、自動化、機械化が進んだ結果、事故が減り、実際に事故を経験した現場の人間がいなくなっていてしまっていると。そのため、いざ大きなトラブルが起きると、社員が事故の対応に不慣れなため、その復旧までに長い時間が掛かってしまうという課題があるということでした。

議論の中では、その対応といたしまして、どのような取組をされてるかというところでございますが、一つはシュミレーターを使った方法について紹介がありました。実際に事故を経験していない社員にも、シュミレーターを使って事故対策を訓練するのが効果的であるということ。あと、シュミレーターを買うのもすごくコストが掛かって大変なので、むしろ

る実際に実車を使って、車庫等で例えば脱線事故が起きたことを想定して、実物を使った事故対応訓練をやっているというようなご紹介がありました。

ほかに、現場において臨場感のある再発防止策を伝える方策として、バス会社の例ですが、ドライブレコーダーに映った実際の事故の映像を運転手に見せて、事故の再発防止を教育しているというご紹介がありました。

それから鉄道会社では、ホームの戸挟みの事故が増えているという課題に対して、同じように、ホームに設置された防犯カメラの映像を現場の従業員に見せて、具体的な事故の様子とその対策等をイメージできるように工夫しているとのご紹介がございました。

また、戸挟みは高齢者の利用客の事故が増えているといったことや、それからトラブル対応について、最近は社外から求められる水準が高くなってきているというようなご意見もございました。

これに加えて、我々のグループのテーマは「事故情報を活用した再発防止」ということでしたが、さらに一步踏み込んで、事故情報だけでなく「ヒヤリハット情報を活用した再発防止」ということも議論させていただきました。

やはり課題としては、ヒヤリハットの情報がなかなか現場から集まりにくいということでした。これに対する取組として紹介があったのは、ヒヤリハット情報を報告した組織、社員に対して表彰するようなこと。それから、ヒヤリハットの報告を、本人が忙しくてなかなか報告書を作成できないという場合は、その上司や事務担当の人が代わりに報告書を作成し、本社に報告するというような取組をされているという紹介がございました。

また、そもそも“ヒヤリハット”というと、どうしても第一人称のイメージがあって、自分が犯してしまったミス等を報告するようなイメージを与えてしまい、情報が集まりにくいので、表現を“改善提案”ですとか、“気がかり情報”として、現場が報告しやすいように工夫しているということがございました。

あと、そのヒヤリハットの情報を受けて、経営層として、会社としてしっかり対応していることを示すことが大事だというご意見がございました。例えば、経営層として、会社として、現場からのヒヤリハット情報を踏まえたハード面での改善点や対処したことを社内に周知するとか、現場から道路施設の改善について意見があった場合は、それをしっかり行政に

対して要望したということ社員にも伝えるということで、ちゃんと上がってきた情報に基づいて会社としてしっかり対応していることを示すことが、ヒヤリハットの情報を集めていく上で有効であるというようなご意見もいただきました。

第2グループの報告は以上でございます。